

編集委員が選んだ本

『原水禁署名運動の誕生』

丸浜江里子著／凱風社／2011年5月／3500円（税別）

1954年3月1日におきた「ビキニ事件（第5福竜丸事件）」では、「原爆マグロ」騒動が起こり、久保山愛吉氏が被曝死した。1930年前後から、消費生活運動がさかんになった杉並地域では、1954年4月15日におこなわれた講演会で、鮮魚商（魚屋）の妻・菅原トミ子が、「魚が全く売れなくて困っています！ビキニ水爆問題をとり上げてください！このままでは魚屋は閉めなければなりません！」などと発言し、鮮魚商などが進める原爆水爆禁止を呼びかける署名を紹介した。この時、講演者として参加していた安井郁は「これは全人類の問題です」と応じ、署名運動の機運が一気に広がった。なぜ杉並からだったのか？結果的に3000万人の住民が原水爆反対署名に立ち上がったが、そこには学ぶべき教訓と今なお残る課題がある。それは何か？

原水爆禁止を求める大署名運動が起きたのとはほぼ同時期、日本政府と大企業の一部はアメリカ政府の提案を受けて、積極的に「原子力の平和利用」という名の原子力発電導入を推し進めた。2011年「3・11」以降、日本の民衆・市民の意識は大きく変化しつつある。ネットを利用した若者中心の反原発コンサートや、脱原発を訴えるデモ行進が各地で起きた。「広島・長崎・ビキニ事件・福島」の歴史的経緯を改めて誠実に学び、その教訓を未来に生かせるかどうか、今まさに求められている。

『これでわかる TPP 問題一問一答』

小倉正行＋合同出版編集部編／合同出版／2011年5月／1400円（税別）

2010年10月の臨時国会所信表明で、菅直人首相の口から、突然、TPPへの参加検討が打ち出された時、素朴に、「なぜ急に？」と感じられた。当時の前原外相が、「GDPのうち第一次産業の占める割合は1.5%。それを守るために、98.5%が犠牲になっている」と発言したと報じられたが、「え？じゃ、農林水産業は壊滅していいわけ？食糧や木材などの自給率はどうなるの？」と思った。

なぜ、中国や韓国が不参加のTPPにこだわるのか？わからないことだらけのまま、この国の大きな方向が決められようとしているのではないかな？

反対の立場だが、推進派の意向もわかる好著だ。

『占いと中世人』

菅原正子／講談社現代新書／2011年2月／740円（税別）

ひと昔（もっと？）前、「動物占い」に熱狂された方、あのとは「陰陽五行説」だとか存じだろうか？そう言えば、安倍晴明は実在の人物とのことだが、彼ら陰陽師の実態は？

かつて、占いが真面目に信じられていた…どころか、政治や、戦国時代の合戦に重大な影響を与えていたことは、TVドラマなどでうすうす知っていた。その時代をリアルに理解するのに不可欠な要素だ、とは思っていた。でも、ちょっとね…とも思っていたが、ついに、まともに実態を伝えてくれる本にめぐり会った。

どこかまがまがしい感じもして、心が騒ぐ。さあ、当時の占いワールドへ！

『これならわかる日本の領土紛争』

松竹伸幸／大月書店／2011年8月／1600円（税別）

日本が直面している3つの領土問題をコンパクトに解説した高校生向けの本である。国際法と現実政治から学ぶという副題からわかるように、国際法の原則を踏まえつつも、現実の複雑な政治状況を柔軟に捉え、解決のための具体的な方策を述べている。

2005年に竹島が外交問題化したのは、島根県議会が「竹島の日」を制定したからである。1998年に日韓漁業協定が結ばれ、竹島周辺での日本漁民の操業が認められた。しかし、操業がなかなか保証されず、議会が反発したことが発端であった。つまり議会は、韓国が竹島を領有していることが問題だとして、漁業問題を領土問題にすり替えてしまったのである。

とすれば、当面の解決方法は明らかである。原理原則をふりまわして漁民の利益をなおざりにするのではなく、漁民が安心して操業できるようにすること、それこそが、現実政治の役割であると強く主張している。

『世界の教科書でよむ〈宗教〉』

藤原聖子／ちくまプリマー新書／2011年7月／780円（税別）

「外国では、他人の宗教を認める教育をしているのか、それとも否定する教育をしているのか」、この問をアメリカやインドネシア、韓国など9カ国の教科書から検証しようというのがこの本のコンセプトである。

例えば、アメリカの教科書では、イスラム教の「ジハード」を次のように説明している。「この言葉は、『奮闘すること、すなわち誘惑に抵抗し、悪を克服すること、できる限り努力することを意味する』。また、ドイツの教科書では、ナチス政権下のユダヤ人虐殺を、ユダヤ人に対する「私たちの罪」と捉え、「アウシュビッツ収容所で起こったことを私たちは忘れてはならない」と語りかけている。国内に宗教対立を抱えている国こそ教科書の中立性を強く志向しているという。

では、日本の教科書ではどうか。続編とも言うべき『教科書の中の宗教』（岩波新書）で明らかにされているので、こちらも是非！